

CLIPPEDIMAGE= JP401291733A
PAT-NO: JP401291733A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01291733 A
TITLE: ANIMAL CONTAINER

PUBN-DATE: November 24, 1989

INVENTOR- INFORMATION:

NAME
NAKAJIMA, TOMOMICHI

ASSIGNEE- INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NAKAJIMA TOMOMICHI	N/A

APPL-NO: JP63124477

APPL-DATE: May 20, 1988

INT-CL_(IPC): A01K001/035

ABSTRACT:

PURPOSE: To perform the deodorization and sterilization of an animal container to a state suitable for the breeding of a pet animal in a room, by detecting the state of the animal such as dog or cat entering into the container, getting out of the container or resting in the container with a sensor and spraying a mist agent for deodorization, sterilization, etc., under the control with a controller based on the detected signal.

CONSTITUTION: The subject animal container 1 has the following construction.

The animal container 1 such as a kennel or pet house is provided with a releasing part 2 (misting and spraying part 5) to release a liquid agent for deodorization, sterilization, etc., in the form of mist into the container and with a controller 3 to control the releasing state of the releasing part 2 according to the time and detection signal. Furthermore, the container has a

detection part 4 to detect the approach of an animal and transmit the detection signal. One or plurality of the above parts are combined to effect the control management of the container. In the figure, 6 is a container for the liquid agent and 7 is a feeding port for the liquid agent.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO&Japio

CLIPPEDIMAGE= JP402135032A
PAT-NO: JP402135032A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02135032 A
TITLE: PET HOUSE

PUBN-DATE: May 23, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
TATSUMI, NAOKO
FUJIOKA, GIICHI
NAKAO, OSAMU
UCHIUMI, YOSABURO
TAMAKI, ATSUSUKE

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
OTSUKA PHARMACEUT FACTORY INC	N/A
EARTH CHEM CORP LTD	N/A
OTSUKA CHEM CO LTD	N/A

APPL-NO: JP63292008

APPL-DATE: November 17, 1988

INT-CL_(IPC): A01K001/02

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain the subject pet house having improved ventilation, etc., and effective in improving the effect of insecticide by opening a ventilation hole, etc., at a specific position of a pet house constructed of a roof, a ceiling and a heat-insulation material and having a hollow double wall, connecting the spaces in the house through said hole and placing a floor, toilet and screen.

CONSTITUTION: A hollow double-wall structure is formed on the right and left circumferential walls 6 of a pet house 1 by attaching a heat-insulation material 7 to the inner surface of the outer side wall 61. The house 1 is furnished with a roof and a ceiling 3 and the space 4 under

the roof 2 is connected to the outer atmosphere through a closeable ventilation hole 5. The hollow part 8 is connected to the space 4 under the roof through a ventilation hole 9 opened at the top of the double-wall. Closeable holes 10, 11 are opened on the upper part and lower part of the right and left outer walls 62. The space in the double-wall is connected to the inner space of the house through a ventilation hole 21 opened at the lower part of the right and left inner walls 63. The house is further provided with an air-permeable floor 13 and a toilet 14 in a freely extractable state. The doorway 16 of the house is closed with a flexible screen 19.

COPYRIGHT: (C)1990, JPO&Japio

⑫公開特許公報 (A)

平2-135032

⑬Int.Cl.⁵

A 01 K 1/02

識別記号

厅内整理番号

C 8808-2B

⑭公開 平成2年(1990)5月23日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全12頁)

⑮発明の名称 ペット小屋

⑯特 願 昭63-292008

⑰出 願 昭63(1988)11月17日

⑮発明者	巽 尚子	徳島県徳島市南出来島町1丁目18番地
⑮発明者	藤岡 義一	徳島県鳴門市撫養町大桑島北の組61番地
⑮発明者	中尾 修	徳島県鳴門市撫養町大桑島字北ノ浜81番地
⑮発明者	内海 与三郎	徳島県板野郡松茂町長原507-2
⑮発明者	多牧 誠祐	徳島県徳島市中吉野町1丁目21番地
⑯出願人	株式会社大塚製薬工場	徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
⑯出願人	アース製薬株式会社	兵庫県赤穂市坂越3218-12
⑯出願人	大塚化学株式会社	大阪府大阪市東区豊後町10番地
⑯代理人	弁理士 三枝 英二	外2名

明細書

産業上の利用分野

発明の名称 ペット小屋

本発明はペット小屋に関する。

特許請求の範囲

従来の技術とその問題点

- ① 屋根裏の空間が通風口で外部と連通した屋根及び天井を持った小屋の少なくとも左右周壁を、外側壁内面に断熱材を張った中空の二重壁構造とし、該二重壁の上端に、その中空と上記屋根裏空間とを連通する風穴を、左右外壁面の上部及び下部に閉鎖可能な開口を、また、左右内壁面の下部に該二重壁中空と小屋の内部空間とを連通させる風穴をそれぞれ設け、上記小屋に、通気性の床及びトレイを引出し自在に備え、更に該小屋の出入り口にそれを閉鎖する可撓性の仕切りを設けたことを特徴とするペット小屋。
- ② 少なくとも左右内壁を、常温揮散性防虫剤の含浸又は塗布により処理したことを特徴とする請求項①記載のペット小屋。

ペット小屋はペットを雨風や直射日光から防護するだけでなく、夏季涼しく、冬季温かく、また蚊等の害虫が入り難い、床を掃除し易い、ペットを繋いだ鎖類が出入り口に噛み込まない、防虫網が破損し難い等々、多くのことが望まれる。

従来、これ等の点を全て充足するペット小屋は、未だ開発されていない。因みに従来、ペット小屋は種々の構造のものが知られているが、中が夏場暑かったり、冬場寒かったり、害虫が入り易かったり、出入口から雨が降り込んだり、扉に鎖が噛み込んだり、床の掃除が困難であったり、防虫網が破損し易かったりの少なくともいずれかの問題があるのが実状である。

本発明の目的は、前記の点を全て充足し、しかも防虫剤の使用効果を向上できるペット小屋を提

発明の詳細な説明

供するにある。

問題点を解決するための手段

本発明の上記目的は、次の構成のベット小屋によって達成される。

即ち、屋根裏の空間が通風口で外部と連通した屋根及び天井を持った小屋の少なくとも左右周壁を、外側壁内面に断熱材を張った中空の二重壁構造とし、該二重壁の上端にその中空と上記屋根裏空間とを連通させる風穴を、左右外壁面の上部及び下部に閉鎖可能な開口を、また、左右内壁面の下部に該二重壁中空と小屋の内部空間とを連通する風穴をそれぞれ設け、上記小屋に、通気性の床及びトレイを引出し自在に備え、更に該小屋の出入り口にそれを閉塞する可撓性の仕切りを設けたベット小屋。

実施例

次に本発明の実施例を添付図面を参照して説明する。

— 3 —

上記二重壁構造(6)の中空(8)は、周壁(6)上端に風穴(9)を設け、これにより前記屋根裏の空間(4)に連通する。更に周壁(6)にはその左右外壁(62)(62)の上部及び下部に閉鎖可能な開口(10)、(11)を設ける。下部の開口(11)は、外壁の下端に接する位置であれば、掃除や排水に好都合である。開口(10)、(11)及び通風口(5)の閉鎖については、適当な手段、例えばブラインド方式、スライド板方式、シャッター方式等により行えばよい。開口(10)、(11)には防虫網を設置することができ、それにより開口(10)、(11)を開けた状態でも害虫の侵入を防止できる。なお、開口(10)、(11)に防虫網を設置した場合でも、ベットがそれを直接引っ搔いたりすることはない。

また、屋根裏空間(4)を有効利用するために、前部周壁屋根裏部に扉(12)を設けることもで

図で符号(1)が小屋を示している。小屋(1)は屋根(2)及び天井(3)を有する。小屋(1)の屋根裏の空間(4)は、閉鎖可能な通風口(5)(5)により外部と連通している。

小屋(1)の左右周壁(6)は、外側壁(61)内面に断熱材(7)を張った中空の二重壁構造として、これをつくる。周壁(6)は、第1図から第3図に示すように、一品生産構法的につくってもよいし、第4図に示すように壁体パネル(60)〔第5図〕を用いてプレハブ構法的につくっても構わない。前後の周壁については、左右の周壁と同様に中空二重壁構造としてもよいが、中空を設けずに外側壁(61)と内側壁(63)の間に断熱材(7)のみを入れた構造としてもよい。壁体パネル(60)には、内側壁下部に風穴(21)を形成し、二重壁中空と小屋内部空間とを連通させておく。風穴(21)の位置は、床(13)のいくらか上方になるのが好ましい。

— 4 —

きる。

小屋(1)には、通気性の床として簀の子状の床(13)を備える。この他に、通気性の床としては格子状の床、パンチングボード等を例示できる。該床(13)の下側には、引出し型のトレイ(14)を設置する。床(13)はトレイ(14)と一体に取付け、引出し自在にする。該床(13)とトレイ(14)の取付けは、第6図に示すように床(13)の一方の長辺と、これに対応するトレイ(14)の側壁とをヒンジ(15)結合した構成とするのがよい。また、別の取付け方法としては、第7図に示すように床(13)とトレイ(14)を脱着自在に嵌着させた構成を示すことができる。尚、床(13)は特に一枚板である必要はない。簀の子状の床(13)の隙間より落ちる残飯や糞等は、該床(13)の下側に設置されたトレイ(14)に捕集される。捕集された残飯や糞等は、トレイ(14)が引出し型であるため、

— 5 —

— 6 —

容易に小屋外に取出し得る。一方、簀の子状の床(13)に付着した残飯や糞等の汚れも、トレイ(14)と一緒に引き出すことにより、容易に洗い流すことができる。

また第1図に示すように、小屋(1)にはその出入口(16)に、それを閉塞する手段として短冊状の可撓性の仕切り(19)を取付ける。その取付けは、出入り口上端より吊り下げ具(17)により吊り下げて仕切り(19)が前後に自在に動き得る方法であれば、特に規定されない。仕切り(19)は小屋(1)内部を透視し得るものであること、および遮熱線の性質を有する材質で作られたものであることが好ましい。透視可能な仕切りは、ペットをして小屋の出入りを安心させ、また飼主が小屋内部のペットの状況を容易に確認できる。遮熱線の性質を有する仕切りは、後述する本発明の小屋内部温度上昇抑制効果をより良好にする。本発明で仕切り(19)を可撓性とした

ことは、ペットに繋いだ鎖(20)がペットの出入り時に仕切りに噛み込んだり、邪魔になったりすることを防止する。即ち、ペットが小屋に入れれば、鎖(20)は第8図に示すように仕切り(19)の下を通過することができ、小屋内のペットから外部に自由に伸び得る。特に、仕切り(19)を適当な幅の短冊状のシート片を並列させたものとすれば、鎖(20)は該シート片の間も通過することができる。その場合、仕切りの遮蔽効果を保たせるために、配列の仕方は第10図に示すような前後二列に、かつ全体としてジクザグ配置になった態様のものとするのが好ましい。仕切り(19)が可撓性でかつ前後に自在に動き得るので、ペットは小屋内外に自由に出入りできる。なお、前記短冊状シート片は、フック等の固定手段でその長さを調節できるようにしてもよい。

仕切り(19)の前面には、必要に応じて硬質の外扉(18)を設ける。外扉(18)の取付け

— 7 —

形態は特に限定されず、公知技術例えは第9図に示したように出入り口上端および扉中央をヒンジ結合させた構成が適用できる。外扉(18)を閉めることによって、激しい雨風が小屋内に吹き込むのをさえぎることができる。外扉(18)も仕切り(19)と同様、飼主が小屋内部のペットの状況を容易に確認できるように、透明な材料を用いるかまたは透視可能な部分を設けておく。

小屋(1)の屋根(2)には裏面に断熱材を張ることを妨げない。

本発明のペット小屋は上記構成であるため、夏季においても小屋内部が涼しい。詳しくは、二重壁構造になった周壁(6)の中空(8)に開口(10)(11)を通じ外気が流れ込み、屋根裏空間(4)に上昇し、また通風口(5)(5)を通じ外気が屋根裏空間(4)を流れる。他方、前記中空(8)内の通風の一部が風穴(21)を通じ小屋内部、詳しくは床(13)上を流れる。こ

— 8 —

の屋根裏、壁及び床上の空気の流れと周壁(6)の断熱材(7)とにより(屋根裏に断熱材を張った場合はそれも)、太陽熱、暑い外気による小屋内部の温度上昇を抑え、小屋内部の涼しさと衛生的環境が得られる。

更に、本発明において小屋内部は天井(3)、内側壁(63)、トレイ(14)及び、仕切り(19)(外扉を設けた場合はそれも)により囲まれているので、蚊等の害虫が入り難い。また通風口(5)(5)及び二重壁構造の周壁(6)の開口(10)(11)を閉じると、周壁中空(8)及び屋根裏空間(4)の空気が閉め切られて、断熱を果たす空気層となる。従って、冬季は小屋内部が温かい。

〔試験例1〕

なお、本発明のペット小屋内部の夏季における温度上昇抑制効果を実証するため、次の要領で実験を行った。即ち、11、12、13図に示す構

— 9 —

— 10 —

造及び仕様（屋根裏にも断熱材あり）の本発明ペット小屋（内寸：間口426mm、奥行き876mm、天井高さ748mm、通気性床の通気穴総面積：床面積の5%）と、第14、15、16図に示す構造及び仕様の比較例としてのペット小屋（内寸は本発明と同じ）について、夏季の内部温度を測定した。

＜テスト条件＞

屋根、天井、内外壁材：厚み12mmのラワン合板
断熱材：厚み25mmの発泡スチロール

二重壁構造の中空部（空気層）の厚み：25mm

テスト場所：徳島県下、野外

テスト年、月、日：昭和63年8月2日（晴時々曇）

温度計：自記温度計

温度計設置箇所：小屋の床上面中央

結果を第17図に示す。

第17図において、破線が比較例のデータ、実

線が本発明品のデータである。

第17図から明らかなように、本発明は従来の一般的なペット小屋と同構成である比較例より、内部温度が相当低くなる。しかも外気温が最も高くなる時間帯において、特に顕著な差が認められる。

なお、本発明は、小屋内部において防虫剤を使用した場合、良好な使用効果が得られる。それは、本発明の小屋が仕切り（19）（外扉を取付けた場合はそれも）付きで、小屋内部に風が吹き曬すことが防止されるからであるし、また小屋内部の温度を防虫剤の分解等を来たす温度以下に抑え得るからである。特に、本発明小屋を常温揮散性防虫剤で処理（含浸、塗布等）した場合、高温や風の吹き曬しにより薬剤が異常揮散することなく、その効果をより長期に亘り持続させることができる。

〔試験例2〕

— 11 —

本発明ペット小屋の薬剤作用持続効果を実証するため、次の要領で実験を行った。即ち、試験例1で用いたものと同様の本発明ペット小屋及び比較用ペット小屋を用い、それぞれの左右内壁面の床上30cmの位置に、防虫剤としてエムペントリル（1-エチニル-2-メチル-2-ベンテニルシス／トランス-クリサンテマート）1.5gを常法により含浸させたベニヤ板（長さ50cm、幅10cm、厚さ4mm）を取り付けた。これらをそれぞれ10℃～40℃の耐候試験チャンバ中に設置しておき、1ヶ月おきに取り出して薬剤の効力試験を行った。

効力試験は、次の要領で行った。即ち、チャンバより取り出した小屋を野外網室内に入れ、小屋内に格子状金網ケージに入れた犬を置いた後、吸血可能なステージの蚊（アカイエカ）を午後5時から翌朝8時まで放飼した。その後放飼蚊を回収し、吸血阻止率を下式より算出した。

$$(1 - \frac{\text{吸血蚊数}}{\text{放飼蚊数}}) \times 100 (\%)$$

結果を第1表に示す。

第 1 表

月	0	1	2	3	4	5
本発明小屋	100	100	98	100	94	96
従来小屋	100	100	85	67	55	58

第1表から明らかなように、本発明ペット小屋で防虫剤を使用した場合、従来のものより長期間その効果を持続できる。

発明の効果

上記から明らかな如く、本発明は冒頭に述べた多くの点を全て充足し、しかも防虫剤の使用効果を向上できるペット小屋を提供することができる。図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す斜視図、第2

— 13 —

— 14 —

図は第1図のペット小屋の縦断面図、第3図は同小屋の横断面図、第4図は本発明の実施の他例を示す横断面図、第5図は第4図のペット小屋における壁体パネルの一部を切りいて示す斜視図、第6図及び第7図は簀の子状床及びトレイの一例を示す斜視図、第8図及び第9図は出入り口部の拡大斜視図、第10図は第8図及び第9図に示された仕切りの一部省略横断面図である。第11図から第13図は試験例1、2に供した本発明品の構造及び仕様図、第14図から第16図は同試験に供した比較例の構造及び仕様図である。

- (1) …小屋、
- (2) …屋根、
- (3) …天井、
- (4) …屋根裏空間、
- (5) …通風口、
- (6) …周壁、
- (7) …断熱材、

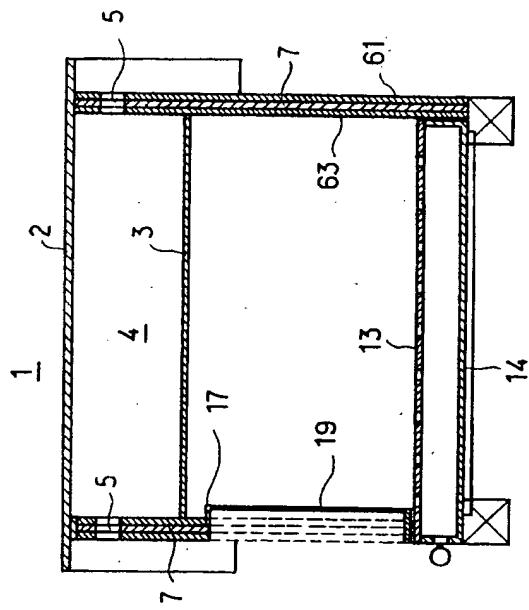
- (8) …中空、
- (9) …風穴、
- (10) (11) …開口、
- (12) …屋根裏扉、
- (13) …床、
- (14) …トレイ、
- (15) …ヒンジ、
- (16) …出入口、
- (17) …吊り下げ具
- (18) …外扉、
- (19) …仕切り、
- (20) …鎖、
- (21) …風穴、
- (61) …外側壁、
- (62) …左右外壁、
- (63) …内側壁。

(以上)

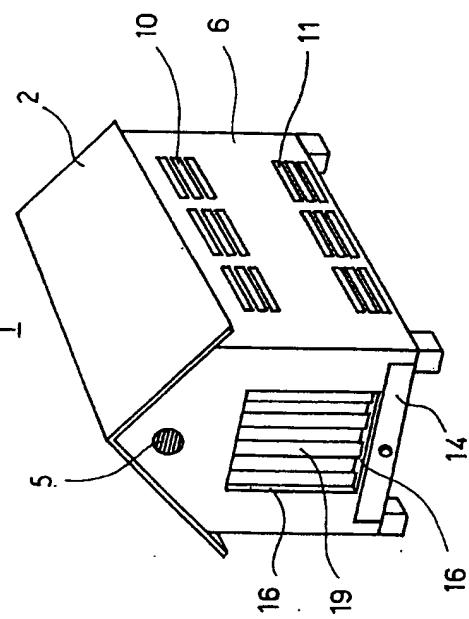
代理人 弁理士 三枝英二

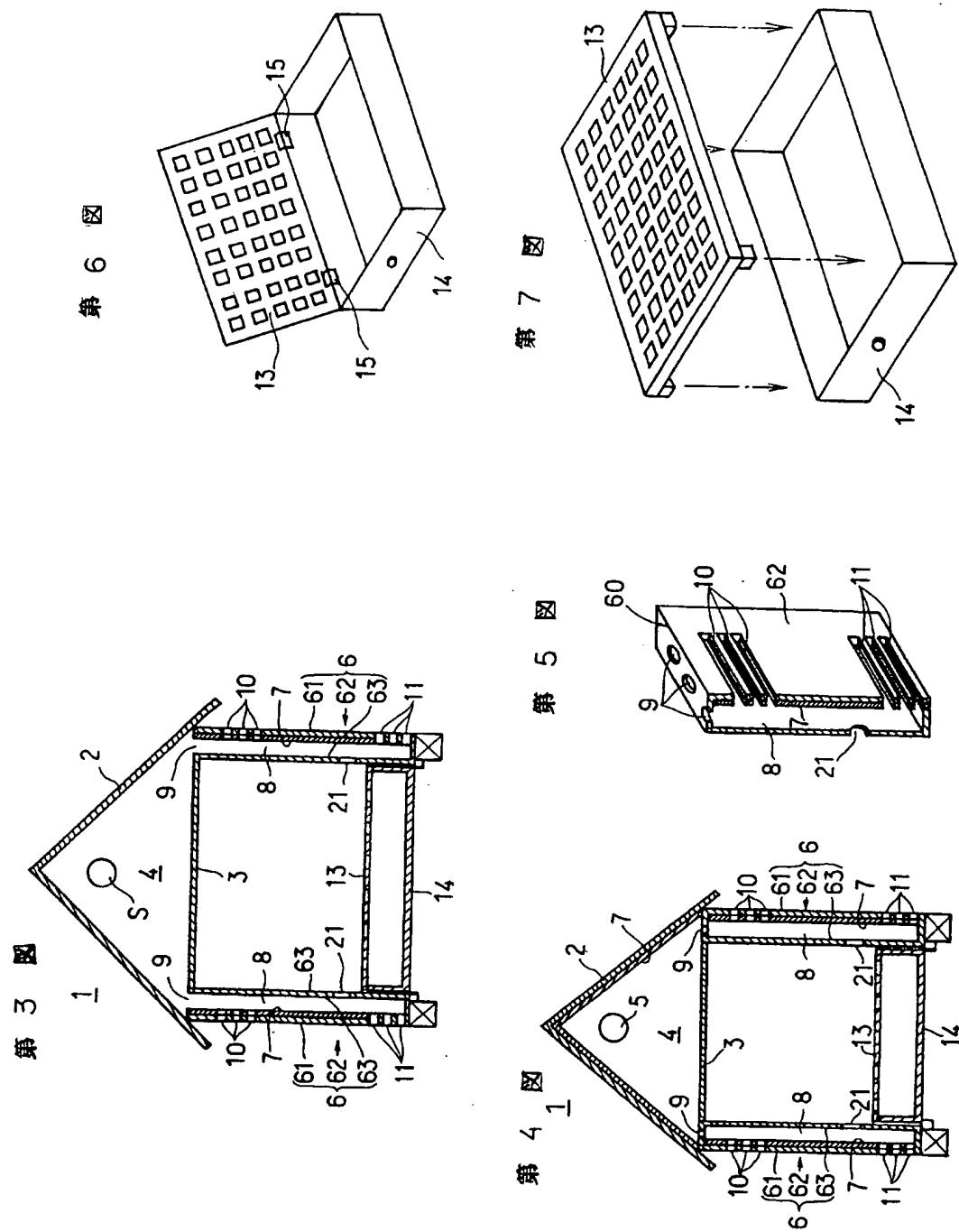


第 2 図

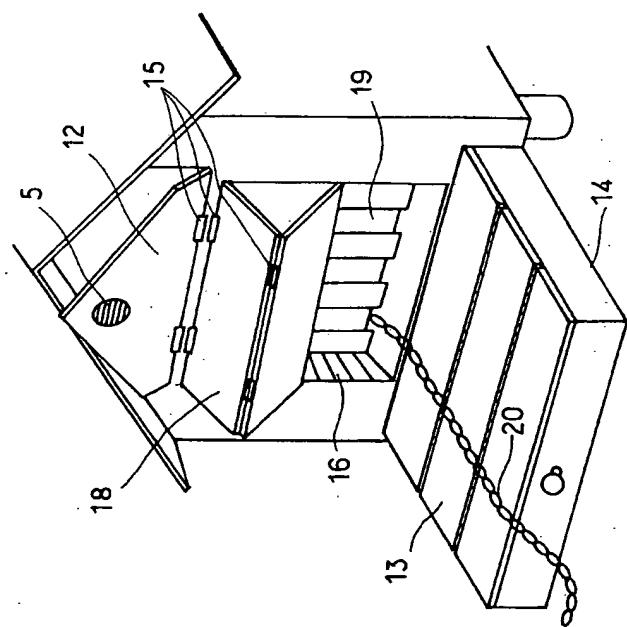


第 1 図

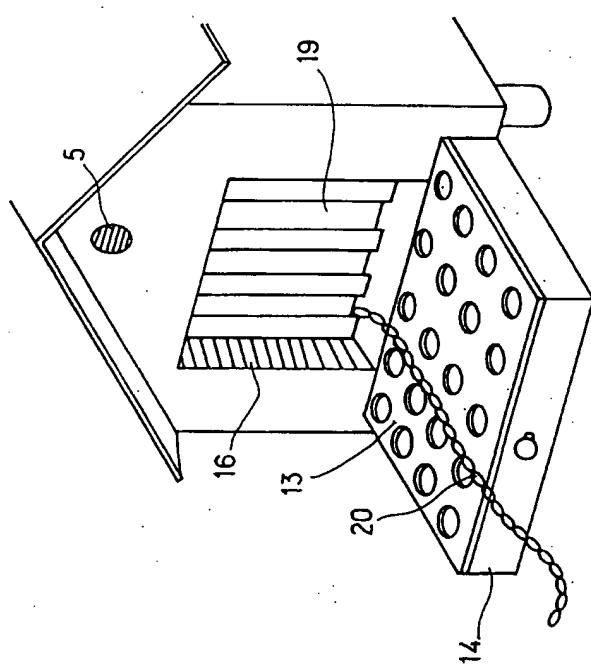




第 9 図



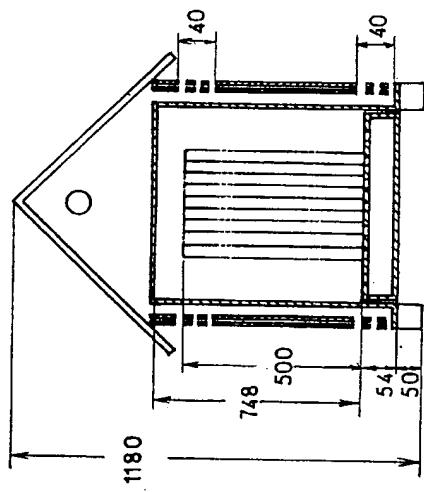
第 8 図



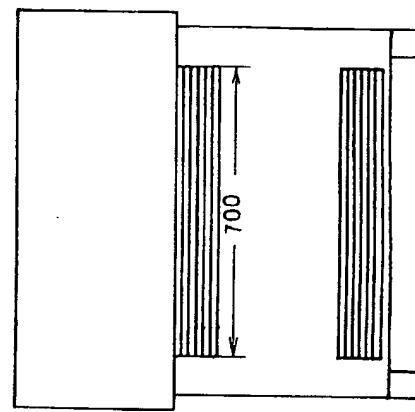
第 10 図



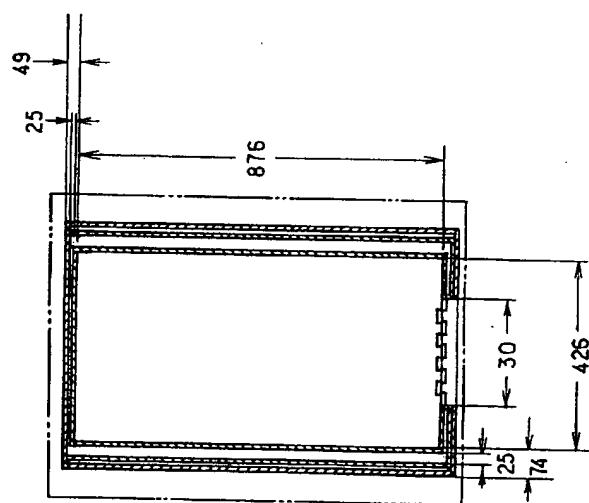
第 12 図



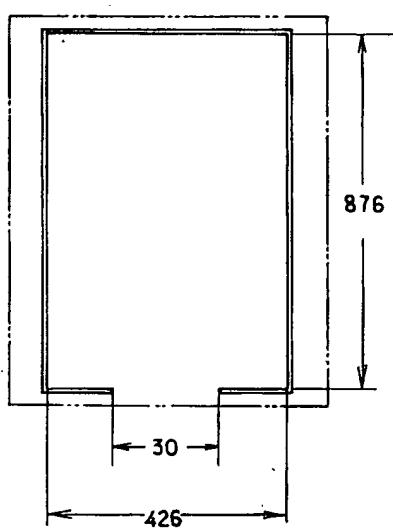
第 13 図



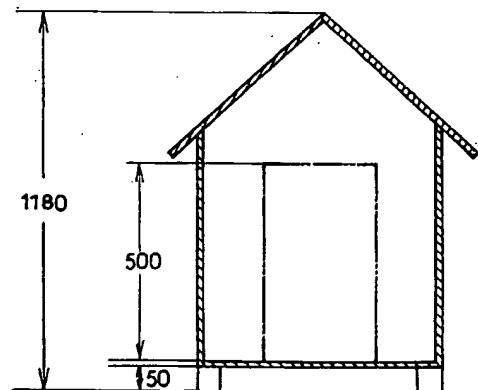
第 11 図



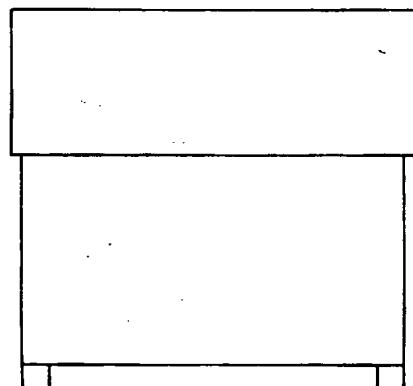
第 14 図



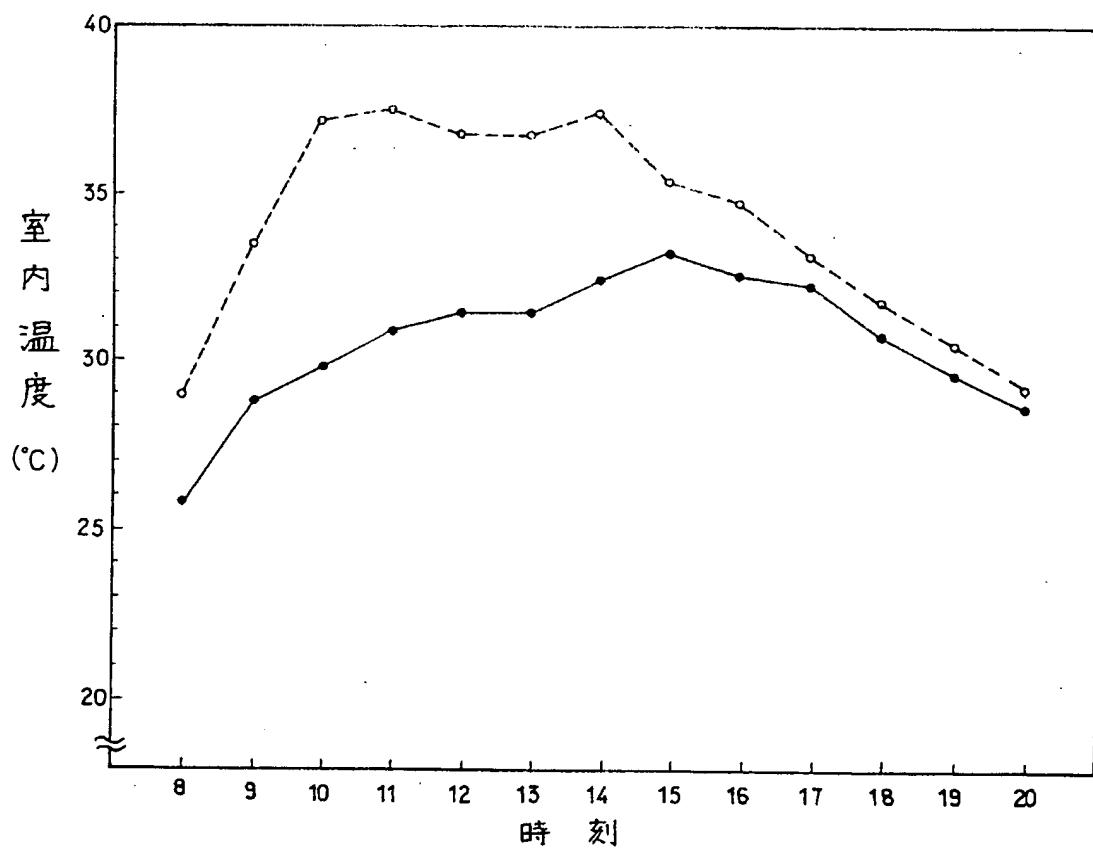
第 15 図



第 16 図



第 17 図



手続補正書(自発)

平成1年1月19日

特許庁長官 吉田文毅殿

1 事件の表示

昭和63年特許願第292008号

2 発明の名称

ペット小屋

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

株式会社大塚製薬工場

(ほか2名)



4 代理人

大阪市東区平野町2の10 沢の鶴ビル

(6521) 弁理士 三枝英二



5 補正命令の日付

自発

6 補正の対象

明細書中「図面の簡単な説明」の項

7 補正の内容

別紙添付の通り



補正の内容

1 明細書中第15頁第11行目「仕様図である。」を次の通り補正する。

「仕様図、第17図は本発明品と比較例との夏季内部温度測定データを示す表である。」

(以上)

- 1 -